



# うない通信 for 先端型

Vol.6

国立大学法人琉球大学ジェンダー協働推進室 ニュースレター

2024年2月発行

## 第17回琉大未来共創フォーラム×ダイバーシティ推進トツセミナーを開催しました

令和5年12月4日、沖縄科学技術大学院大学(OIST)の協力を得てカリン・マルキデス学長兼理事長を講師にお迎えし、「DE&Iの本質 大学の課題と挑戦 – The Essential Roles of DE&I Challenges and Opportunities for Universities」(※DE&I=Diversity, Equity, and Inclusion)を完全オンラインで開催しました。豊富なリーダーシップ経験を持つマルキデス学長の講演を聞きたいと、沖縄県内、県外、海外から140名以上の参加がありました。

冒頭で紹介された「常に枠の外へ行くべきだ。自分らしくあれ。勇敢であれ。そして、来たときよりも良い状態ですべてを去れ」というお父様の言葉はマルキデス学長が大きな決断をする度に思い起こされ、リーダーとして成長していく上で影響を与えたということです。国際的にご活躍されてきたマルキデス学長は、「様々な人や組織とネットワークを構築し、信頼と影響を積み上げることは大変重要である」と強調します。異分野の人たちとも積極的に関係を構築していくことは、自身のキャリアに影響を与え、大学が地域へ貢献することにも繋がります。そのため若手研究者のうちから、積極的にネットワークを構築するようアドバイスがありました。

大学の本質と役割については、①大学は社会の中で独自の役割を持つ拠点となることを目指すこと ②国際的なプレーヤーとなること ③国内ベンチマークとして大学間の連携を強化し、国へ声を届けていくこと ④地域及びその環境の中でチェンジメーカーとなること、という提言がありました。特に、「大学は次世代のリーダーを育成する場である」というお考えは、大学の役割を再認識させるものでした。博士号取得者を増やすことは、科学技術競争力の基盤と、より持続可能な未来を創る人的資本を高めることとなります。次世代人材がリーダーとなり、変革者となれるよう支援することが大学に求められている、と述べられました。また、修士課程、博士課程と進むにつれて女性比率が減少する日本への現状についても言及がありました。「ジェンダーギャップを縮めることも大学の役割である」と考えるマルキデス学長は、次世代人材となる若者たちへ、冒頭のお父様の言葉を伝え



講演中のカリン・マルキデス学長

ていく重要性を説いておられました。そして、チームを作る際には積極的に女性を含むべきであり、好奇心に基づいた教育・研究・イノベーションにDE&Iは不可欠である、とお話しされました。

質疑応答では、「研究者と学長としての視座の違いはあるか、そしてどのような考えが必要なのか?」という質問に対して「組織のどこにいるのかで役割は違うと感じる」「学長という立場においては全ての人を平等に扱うことが重要だ」と述べられました。さらに、孤独な場面もあるが、職員にとってアプローチしやすい学長であることも必要であり、リーダーとなるためのトレーニングを受講するなどして心構えを持つと良い、というアドバイスもありました。

また、「DE&Iをサポートするために、男性のアライ(支援者)を作ろうと努力したことはあるか、そして男性もDE&Iを推進するためには何が必要か?」という質問には、「女性研究者の組織を作ろうとした際、男性がリーダーを務めるべきだと進言したことがある」という過去の経験をご共有されました。「取組を主導するにはインクルーシブに進めてなければならならず、様々な人たちの協力が必要で、積極的にDE&Iのために取り組む男性の姿を見せていくことは有効だ」と述べられました。

DE&Iを実践し、大学という場所がこれからどのように発展をしていくべきか、改めて課題を提示いただき、学びの多い機会となりました。

## FD・SD 研修「ゆんたく de スクブン」シリーズ

### 第1回「代理職のお悩み相談所」を開催しました

本学独自の様々な「スクブン」を共有・蓄積する研修を通し、多様な教職員が繋がり、学びあい、支えあえる職場環境の実現を目指し、令和5年度より「ゆんたく de スクブン」シリーズを開始することといたしました。沖縄のことばで、「ゆんたく」はざっくばらんに楽しく話をする事、そして「スクブン」とは、職分や使命、役割を意味します。このシリーズを通し、本学ならではのスクブンを蓄積し、メンタリングやスキルアップ等、様々な支援へ繋げる予定です。

第1回目として、令和5年11月22日にSD研修「代理職のお悩み相談所」を開催しました。代理職のポジションで活躍する女性職員12名が参加し、それぞれの部署の課題や、自身の悩み事などが共有され、課題の解決方法や必要とされるスキルについて話し合いました。今回共有された課題は、代理職以外の役職者やマネジメントに携わる教員にも通じる課題であると感じ、3月15日にスキルアップセミナーを開催することといたしました。このセミナーは、ダイバーシティ推進セミナー（FD・SD研修）として提供する予定です。

#### 参加者の声

- 今回のセミナーは本音を語り合えるとても良い機会でした。関連業務が無い限り、同じ職位で話す機会がないので、代理職として抱える問題・課題を共有できたことは非常に良かったと思います。
- 同じ悩みをもった方々と話題を共有する機会を与您いただき大変ありがたかったです。今後もセミナー等があれば積極的に参加し横の繋がりを強化したいと思っております。



## オーガナイザー養成支援を実施しました

将来、学内外においてリーダーシップを発揮できる女性研究者の育成を目的としており、女性教員自らがオーガナイザーとして研究発表会やセミナー・シンポジウム等の企画・運営に携わる際、その開催に係る費用の一部を支援する「オーガナイザー養成支援」を募集しました。厳正なる審査の結果、下記1名を採択しました。

【採択者】 田中 厚子 助教（理学部）  
研究発表会「植物イメージングの会」  
日時：令和5年10月28日（土）午後～令和5年10月30日（月）午前



## 国際学会派遣+1 Visit

女性研究者の研究力と管理運営能力の向上を推進することを目的とした「国際学会派遣+1 Visit」を実施しました。

本制度は、国際学会等で女性研究者自らが研究成果発表を行う場合において、国際共同研究を推進するための新たな研究ネットワークの構築や、管理運営に関して先進的な取組を行う教育研究機関等を調査訪問することを「+1 Visit」として旅程に加えていただくもので、係る費用の一部を補助するものです。下記1名を採択しました。

【採択者】 加瀬 保子 准教授（国際地域創造学部）

## 附属図書館企画展「国際ガールズ・デーから考える学びの機会」の共催

琉球大学附属図書館との共催による企画展「国際ガールズ・デーから考える学びの機会」を、令和5年10月10日(火)から10月31日(火)までの間、琉球大学附属図書館本館2階ラーニング・コモンズにおいて開催しました。

本企画展は、国連により毎年10月11日に定められている女の子の権利促進について啓発する「国際ガールズ・デー」に合わせて企画したものです。企画展では、本学での女子学生の学びを支援する取組や関連資料の展示、及び無意識のバイアスについて考える各種資料を紹介しました。ジェンダー協働推進室からは、令和4年度に「琉球大学女子学生学術研究等活動うない奨励賞」を受賞した大学院生及び「岸本遺贈基金寄附金グローバル人材育成事業」を利用した大学院生より、研究活動の紹介や後輩に向けたメッセージを展示しました。



## ジェンダー協働推進室からのお知らせ

### ●FD・SD 研修 ダイバーシティ推進セミナー

3月15日にFD・SD研修×ダイバーシティ推進として、右記2つのセミナーを開催予定です。詳細は、ジェンダー協働推進室ウェブサイトよりご確認ください。

午前：リーダーシップ・マネジメント概論 研修 (3時間)  
午後：DE&I 促進のための  
コミュニケーション 研修 (2時間)  
※DE&I=Diversity, Equity, and Inclusion を指す

### ●令和6年度 各種事業の募集開始について

令和6年度事業のうち、右記の事業は3月以降、順次募集開始の予定です。詳細は、ジェンダー協働推進室ウェブサイトよりご確認ください。

- ・令和6年度第1期研究活動等支援員制度
- ・育児サポート・サービス及び病児・病後児保育利用料補助事業
- ・女性研究者介護帰省費用補助事業

### 研究活動等支援員制度 利用者・支援者の声

#### 【利用者】

宮城 利佳子 保健学講師 (教育学部)

研究活動を効果的に進めるために研究支援員制度を活用して、今期で4期目です。支援員にはデータ入力作業や作成した原稿のチェック作業を主に依頼しています。また、オンライン講演、シンポジウムへの出席をお願いし、ノートをもとめてもらっています。これらにより研究時間を増やすことができるだけでなく、ミスをなくすことにもつながり、研究の質も高めることができ、非常にありがたい制度だなと感謝しています。

#### 【支援員】

大城 空 (教育学部)

支援員としての勤務は、主にシンポジウム等のノートテイキングや宮城先生の研究のデータ整理を行いました。保育関連シンポジウムの視聴とノートテイキングは、保育に興味がある私にとって貴重な機会で、保育に関する専門知識や新たなアイデアに触れ、自己成長に繋がりました。研究のデータ整理では、情報整理や分析方法を学び、大学での研究に活かせました。両方の活動を通じて、専門知識の向上と研究スキルの発展を実感しています。

編集後記：ニューズレター Vol.6 をお読みいただきありがとうございました。多くの方のサポートによってジェンダー協働推進室の活動は支えられており、活動を通じて私自身にとっても大きな学びの場になりました。この場をお借りしてご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。(編集者：與那嶺)

支援事業やセミナー等の詳細につきましては、随時ジェンダー協働推進室HPで発信しております。



国立大学法人 琉球大学 ジェンダー協働推進室  
Gender Equality Promotion Office, University of the Ryukyus

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 大学本部1階 TEL:098-895-8675

E-mail:gender@acs.u-ryukyu.ac.jp URL:http://www.gender.jim.u-ryukyu.ac.jp/sentan/

